

新刊紹介

P. V. Bapat: 2500 years of Buddhism. Foreword by Radhakrishnan Government of India, glossary, Bibliography, Index 1956 Rs. 6 12s 6d \$2. pp. 503

佛教が印度を中心とする東洋に擴がり今や廣く東洋文化を代表する遺産として世界の思想界に登場した。従來は各部門、各地域的限定をうけて佛教全體を取り上げることが少かつた。そのみならず佛教思想の政治的役割といふものも見逃すわけにはゆかない。

新しく世界に登場した佛教思想の全體的把握と二十世紀に處する佛教的イデオロギーの宣揚といふ二つの意味に於て佛誕二千五百年記念事業として世に出たのが本書である。一九五六年印度政府の熱意によつて世界佛教徒大會がネパールのルンビニー園で行はれたのは衆知の如くである。佛教を中心とする東洋思想の宣揚として印度政府から本書の出版された

といふことは特筆すべき佛教の進出である。

本書の序文は副大統領ラダクリシュナン博士によつてかれ印度唯一の篤學者バット博士によつて編集され、世界各國の學者が各専門の領域から懇切な解明を與へてゐる。

その部門は廣く原始佛教々團史、アジヤに於ける傳導史、文獻史、美術、教育、世界各國に於ける佛教研究の狀況、現代に於ける佛教の課等を網羅し、更に文獻、教團史についてのチャート並に美術寫眞をも挿入してあるのは一般のためのみならず専門の學者をし裨益するところがあらう。日本佛教學界についての所論も見える。

編集者バット教授の綿密な計畫は各論項の擔當者として自由な問題羅列に終らしめずより一層、立入つた調査研究を促して學術書としての成巧をおさめしめた。

出版後間もなく初版はつき既に第二版は一九五七年十月に世に出でることになつてゐる。政府は記念出版といふ意味で特に廉價にして一般人士に便宜を與へて

る (Bespr. von Sasaki).

Nobel, Johannes: Udrāyana, König von Roruka. II. Wörterbuch. Wiesbaden Harrassowitz 1955. VII, 87s.

本書は梵文原典のチベット譯とその獨譯並に辭典からなつてゐる。

一九五〇年ノーベル教授は金光明經の藏文並に梵藏獨三ヶ國語による辭典を出版してその精密さは斯界を驚かせた所であつた。此れに引續いて出されたのが藏譯 Udrāyanavadana のグロッサリーである。此のグロッサリーでは例へばチベットの標語があらはれてゐる場合、動詞の語根と共に現在形をあげそれに獨譯を附し更に梵語原典の個々の典據を與へてゐる。さういふ點では金光明經のグロッサリーよりも一層、讀者に便を與へてゐる。

元來、梵藏兩譯の對照をとりあつかふ場合、問題となることは如何なる梵語が西藏語の譯であるか、又、それが如何なる範圍で取意的に譯されてゐるのかといふことである。その際、梵語を主として